

2016 富士チャンピオンレースシリーズ 第1戦 レポート

86&BRZ/8Beat Round 1



いよいよ開幕した2016 富士チャンピオンレースシリーズ、あいにくの空模様となってしまったが、開幕戦最初のレースはこのカテゴリーとなった。土曜日朝一番の予選が行なわれた頃は雨が降ってはいないものの路面はセミウェット、この難しいコンディションでポールポジションを決めたのはJP-3Sクラス13 AFアローズDXLポニコツ86 市川忠康で2'10.247。続いては86&BRZクラストップの47 アバンテML・86 落合立成2'10.716。JP2-Sクラストップは総合4番手で77 クラパンNゼロ86 佐藤圭の2'12.316というスターティンググリッドとなった。今シーズン最初の決勝ではスタートから激しいトップ争い、上位陣の混戦の中、総合5番手スタートのJP2-Sクラス49 DEADPECKERS音無86 清充秀が3周目にトップに立つ。5周目には予選総合8番手から前を狙ってきた08 AUTOFACTORY 彩86 AKKYが2番手まで追いつけてきたが、シーズン最初のレースは約0.9秒差で49 清が最初にチェッカーを受けた。JP-3Sクラスは13 市川が勝ち、86&BRZクラスは予選7番手、クラス3番手から混戦を抜けた53 86Racer's平良号 平良浩幸が優勝した。



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank No.	Name
1	53 平良 浩幸
2	47 落合 立成
3	23 YUGO
4	222 松下 浩平
5	35 土本 忍



RESULT リザルト 8Beat JP-2S

Rank No.	Name
1	49 清 充秀
2	08 AKKY
3	77 佐藤 圭



RESULT リザルト 8Beat JP-3S

Rank No.	Name
1	13 市川 忠康
2	1 木幡 修一郎

Super FJ Round 1



今年の開幕戦は11台が参加したSuper-FJ。ドライバーのラインナップはかなり代わってきているので若手が入ってきているように見受けられる。朝の予選は所々がセミウェットのコンディション。その中でトップタイムをマークしたのは2 ガレージ茶畑10V ED 上村昌史 1'59.710。続いては36 アルビGIA玉三郎10V ED 草野貴哉 1'59.880、31 ZAP スタジオコメ10VED 三枝拓己1'59.974という結果になった。午後の決勝は曇ってはいるものの、すっかり路面も乾きドライコンディションで行なわれた。スタートではトップの位置を守りTGRコーナー(1コーナー)へ消えて行く2 上村、背後でも激しい争いの中、オープニングラップ2番手まで上がってきたのは7番手からスタートした22 150WMユニルオパール10V 赤堀憲臣。上位2台の差が2秒台で周回を重ねるが、その後ろでは3番手表彰台争いが終盤まで続き、優勝は2 上村、2位22 赤堀、3位には31 三枝という結果になった。レース後2 上村は「初めてのフォーミュラのレース参戦です。今までカートは出ていたのですが、スタートの時にはものすごく緊張しました。レース中も自分に「落ち着け」と言い聞かせながら走っていました」と話していた。



RESULT リザルト Super FJ

Rank No.	Name
1	2 上村 昌史
2	22 赤堀 憲臣
3	31 三枝 拓己
4	36 草野 貴哉
5	37 小村方 喜章
6	14 飯嶋 郁陽

FCR-F Round 1



12台で行なわれた開幕戦。昨年は毎戦優勝ドライバーが異なり、最後まで熾烈なチャンピオン争いが繰り広げられたこのカテゴリー。この開幕戦予選でトップタイムを出したのは、昨シーズンランキング2位の72 チームNATS・正義 056 金井亮忠 1'48.908。フロントローに並ぶのは73 チームNATS・エクシズ006 里見乃亜 1'49.172。その後ろには、19 Sウインズ☆ハンマーバリュー ハンマー伊澤 1'50.326となっている。決勝レースでは、73 里見がスタートで上手く前を押さえてトップで1コーナーに、72 金井もポジションを奪い返す激しいトップ争いがレース中盤まで続いたが、その差は徐々に広がり12週の決勝レースを制したのは73 里見だった。2位には72 金井、3位には予選4番手スタートの27 モレキュールアキランドイグル 八巻渉が表彰台に上がる結果となった。73里見は「スタートが上手く決められました。今回はマシンのセッティングも上手く決まって、優勝することができました。この調子で今シーズン頑張ります」とコメント。

RESULT リザルト FCR-F

Rank No.	Name
1	73 里見 乃亜
2	72 金井 亮忠
3	27 八巻 渉
4	99 早坂 公希
5	19 ハンマー伊澤
6	77 木村 順

ROADSTER N1 ROADSTER CUP NA6・NA8・NB8 Round 1



今シーズンはロードスター N1、ロードスターカップNA6・NA8・NB8の4クラスが混走で行なわれる。開幕戦の今回は23台のエントリー。日曜朝の予選ではウェット路面の中、NA8クラス88なおしおるぐアクレNA8 山田健介が2'21.977でポールポジション。フロントローにはNB8クラス91 samsplロードスター 神谷誠が2'22.560で並ぶ。N1クラストップは総合6番手1 コーンズIDIロードスター 大野俊哉が2'25.204。NA6クラスでは10 バブルドリーム☆アクレNA6 榎園弘の2'25.850。決勝でも雨が強まったり弱まったりの中9週のレースがスタートする。91 神谷と同じクラスの11戸田が激しい総合2位・クラストップ争いを続けるのを尻目に徐々に差を広げる88山田。そのまま9週の決勝をトップチェッカーで終えた。NA8 88山田「初優勝！タイヤ選択のおかげです」NA8 91 神谷「初優勝です！トップに立てた後半は、早くチェッカーにならないかと思いながら走っていました」N1 1 大野「難しかったー！今年も連覇を狙います」NA6はクラス3番手から優勝した23 JoyアクレMotys☆NA6 山川穰「クラスも入り乱れて大変でした。抜くのも大変だけれど利用もさせていただき大変だけれど楽しかった」と各クラスの優勝ドライバーは話していた。

RESULT リザルト ROADSTER N1

Rank No.	Name
1	1 大野 俊哉
2	22 小林 弘典
3	24 田辺 良輔
4	4 武居 剛
5	81 安達 陽平
6	43 大井 正伸



RESULT リザルト ROADSTER CUP NA6

Rank No.	Name
1	23 山川 穰
2	10 榎園 弘
3	76 辻本 均



RESULT リザルト ROADSTER CUP NA8

Rank No.	Name
1	88 山田 健介
2	39 須藤 裕輝



RESULT リザルト ROADSTER CUP NB8

Rank No.	Name
1	91 神谷 誠
2	11 戸田 裕一
3	12 東 宗明
4	77 鈴木 勇太
5	21 山平 健太郎
6	26 三橋 準

N1000/ROADSTER CUP NC・ND DEMIO RACE Round 1



9周で行なわれたこのレース、今回のエントリーは19台。日曜朝の予選は雨の中行われ、総合のトップタイムを記録したのは、NCオープン 1 joy☆abMoty's RS 高橋裕史 2'21.286。NDトップは総合3番手で132 おやしRZロードスター ED 新井敏克 2'24.657。N1000トップは総合6番手27 ALPHA IDIヴィッツ 山崎じん 2'26.493。デミオは75 145デミオ改withSKR 西山隆 2'27.948という結果になった。決勝スタート時には雨も小降りになっていたが、まだ路面はウェット状態。フロントロースタートの8 ド☆ライダーロードスターアクレ 菊池聡が好スタートでトップに立ち一旦は引き離れたものの、1 高橋も後半でコンマ差まで追い上げるが0.5秒差で菊池が逃げ切った。最後までトップ3台の激しい戦いとなったN1000は 2 コルサ アンジェ西砂タイヤVitz あおきみのるが優勝「最終ラップで前にでられてラッキーでした」と話している。NCオープン 8 菊池「苦しかった！オヤジのいやらしさ全開で走りました」JNCチャレンジは22 Pearlロードスター 中桐孝治「初優勝！嬉しいです」JND 21 新井「楽しめました」デミオ75西山「なかなか大変だったけれど楽しんで走れました」と話していた。



RESULT リザルト N1000

Rank No.	Name
1	2 あおき みのる
2	54 垣生 彬
3	393 前田 貴行
4	27 山崎 じん
5	83 松本 英之
6	49 菅野 良男



RESULT リザルト DEMIO RACE

Rank No.	Name
1	75 西山 隆
2	34 常盤 岳史
3	51 戸田 和彦
4	38 古閑 宏



RESULT リザルト ROADSTER CUP NC Open

Rank No.	Name
1	8 菊池 聡
2	1 高橋 裕史
3	16 横山 護
4	25 橋川 学



RESULT リザルト ROADSTER CUP NC Challenge

Rank No.	Name
1	22 中桐 孝治
2	87 坂田 絵里子



RESULT リザルト ROADSTER CUP ND

Rank No.	Name
1	21 新井 敏克

AE86/MR2/NA1600/SILVIA-180 Round 1



開幕戦最後のレースはこのカテゴリー、今回は4クラスで行われた。日曜日午前中の予選で総合トップだったのはNA1600 37 四季の森歯科IDIウィンちゃん 秋元優範の2'08.278。2番手にはシルビア 15 S15シルビア・アクレ山崎浩明が2'09.249で続いている。MR2では78 ダイエーモータースDXLMR2 谷田伸行が2'11.922。AE86は240 ガレーシアネックス・μ・レビン 山口崇の2'11.963がクラストップからのスタートとなった。決勝では前半の混戦を抜け5周目に総合7番手から追い上げてきたシルビア 11 REXCELまつおかシルビア 大山雅樹がトップに立ちそのままトップチェッカーを受けた。その他のクラスも最後までコンマ差の接戦が続き、NA1600は31 NDC-Tokyoロードスター 高橋賢一、MR2は78谷田が逃げ切り、激しいバトルが繰り広げられたAE86は36 BigeyeACREレビン 大石重之が優勝。11大山は「タイミングよく前に行けました。タイヤがたれないように気をつけて走りました」78 谷田「ポールのトゥインです！」31 高橋「新しいコースになってから初めて勝って嬉しい！」36大石「大変でしたが勝って嬉しい、タイヤ選択があたりました」と話していた。



RESULT リザルト AE86

Rank No.	Name
1	36 大石 重之
2	41 中村 徹
3	48 深沢 泰司
4	240 山口 崇



RESULT リザルト MR2

Rank No.	Name
1	78 谷田 伸行
2	34 奥田 達矢
3	3 土取 謙太郎
4	25 藤永 雅彦
5	20 木邨 一吉



RESULT リザルト NA1600

Rank No.	Name
1	31 高橋 賢一
2	99 竹内 秀伸



RESULT リザルト SILVIA-180

Rank No.	Name
1	11 大山 雅樹
2	15 山崎 浩明
3	79 田中 貴洋



今年も始まったIPSシリーズ、開幕戦のジェントルマンレース予選トップはE(エキスパート)クラス 50 B-MAX・インタープロト DRAGON 1'57.478。G(ジェントルマン)クラスは16 ララパルーザ 渡邊久和が1'58.837のトップタイムを出した。土曜日の第1戦決勝では、スタート時には朝の小雨も上がり雲は重いものの路面はドライ、その中でスタートからトップを守りぬいた50 DRAGONがそのまま総合トップでチェッカーを受けた。Gクラスは予選4番手(クラス2番手)からスタートの37 IPF-01 上野嘉三が優勝した。50 DRAGONは「マシントラブルが出てしまったのでカバーしながら走っていましたが」37上野は「予選でスピンしたので走り出しはおとなしくしましたが後半頑張りました」日曜日の第2戦決勝は雨模様でセーフティカー先導となり、4周目から正式スタートが切られた。悪天候の中順調に周回を重ねる50 DRAGON、Gクラスでは総合6番手(クラス3番手)グリッドから追いつけた16 渡邊がトップでチェッカーを受けた。50 DRAGONは「昨日のトラブルも直してもらいましたが走行はしていないので気を使いながら走りました」16 渡邊は「嬉しい!」の一言です。慎重に走りました」と話していた。

Round1

IPS-Expert



RESULT リザルト IPS-E

Rank No.	Name
1	50 DRAGON
2	8 田島 剛
3	3 FLYING RAT

IPS-Gentleman



RESULT リザルト IPS-G

Rank No.	Name
1	37 上野 嘉三
2	16 渡邊 久和
3	4 今中 大介
4	7 とおる君
5	19 高橋 照夫

Round2

IPS-Expert



RESULT リザルト IPS-E

Rank No.	Name
1	50 DRAGON
2	8 田島 剛
3	3 FLYING RAT

IPS-Gentleman



RESULT リザルト IPS-G

Rank No.	Name
1	16 渡邊 久和
2	37 上野 嘉三
3	7 とおる君
4	55 佐藤 政宏
5	4 今中 大介
6	19 高橋 照夫



今シーズンも豪華なドライバーがエントリーしているIPS Proクラス。土曜日の難しい路面の中トップタイムを出したのは19 TAO Racing 平手晃平1'49.117。続いて3 INGING MOTORSPORT 石浦宏明の1'49.402。日曜日の第1レース決勝では19平手と8 J-Gear8 松田次生の2台が激しいトップ争いを繰り広げ、8周レースのトップチェッカーは8 平手が先に受けた。続く第2レースではこの2台に37 IPF-01 中山雄一と7 J-Gear7&とおる君 坪井翔の4台がトップ争い、10周のレースは8 松田が優勝、2位には7 坪井、3位は37 中山という結果となった。レース後8 松田は「このマシンで初めての雨で辛かったけれど何とか特性を掴んで最終ラップでファステストも出せました。今日はとてもハイレベルの戦いでこの中、勝てたのと自分もスキルアップできたし楽しめました」とコメントしている。

Round1



RESULT リザルト IPS Pro

Rank No.	Name
1	19 平手 晃平
2	8 松田 次生
3	37 中山 雄一
4	7 坪井 翔
5	50 佐々木 大樹
6	4 安田 裕信

Round2



RESULT リザルト IPS Pro

Rank No.	Name
1	8 松田 次生
2	7 坪井 翔
3	37 中山 雄一
4	50 佐々木 大樹
5	4 安田 裕信
6	19 平手 晃平